



## 「小豆島」イベントの旅

2010・5・29(土)～30(日)

主催 サイクルボランティア・ジャパン (CVJ)

青い鳥ことばの会



新緑の「小豆島」で、観光やサイクリング、そして  
現地でのすてきな体験・交流のひとつ

# 10年「小豆島」イベント！！

## 報告集

みんなで作った楽しい

思い出の2日間！

### 【 I 】 二日間の概要

＜企画担当＞ 大島 政広



「サイクルボランティア・ジャパン」と「青い鳥ことばの会」が  
共催しての「しまなみ海道イベント」(08・09年)に続いて、3年  
目の今年は、晴天に恵まれた5月29日(土)～30日(日)に58  
名の参加で、新緑の美しい瀬戸内に位置する小豆島を舞台にすばら



しい2日間をエンジョイしました。

参加者の内訳は「障害」をもった方21名(視覚「障害」4名、肢体不自由2名、知的・「自閉」など発達「障害」15名)、CVJ ボランティア14名(内、関東から6名)、一般ボランティア14名、ゲスト5名、家族4名と幅広い参加者が集いました。また、この中には、3名の看護師さんが来てくださり参加者の健康管理に関わっていただきました。

＜第1日目＞ 5月29日(土)

＜ 出発 → 小豆島 到着 ＞

2日間の行程の最初は、まず枚方市、茨木市内2カ所の3カ所から  
バスに乗り込んで、小豆島へ渡るため姫路港に向け出発。



今年はフェリーを利用するというので、昨年より約1時間早いスタートのため、遅刻者が出ないかと心配でしたが、快晴の空の下、予定した全員がバスに乗車することができました。企画したものにとって50名近い参加予定者が誰一人欠けることなく、無事バスに乗車できたことは大きな喜びでした。

バスのドライバーは、この2年間「しまなみ海道」イベントでお世話になった京阪バスの武村則一さん。細かなところまで心配りをしてくださり、過去2年間の「しまなみ海道」イベントでは影の立役者ともいふべき心強い助っ人に今年も来ていただくことができました。

今回も最初の行程である姫路港までのルートを、渋滞・料金などその日の道路状況に対応できるよういくつもプランを準備して下さっており、当初、京阪バス担当者と「中国自動車道」を利用するコースで計画をしていたのですが、当日あまりの渋滞のすごさに、阪神・第二神明高速を走るルートに急きょ切り変えたのですが、乗船時間の決まったフェリーに間に合うよう、途中サービスエリアで休憩時間もとりながら、見事40分前にはフェリー乗り場につけてくださいました。



<フェリー甲板にて>

姫路港では、阪神地区方面などからの9名の参加者と無事合流することができ、乗船手続きをすませ、1時間40分の瀬戸内海の船旅を楽しみながら小豆島に向かいました。

船では参加者とボランティアの交流がデッキの散策や昼食のひれカツ弁当を食べながらなされましたが、船内で予定していたボランティアの打ち合わせ（日程確認・ボランティアの心構えなど）は騒々しい雰囲気の中で集中できないということで断念することとなり、小豆島に12時55分予定通り到着。

### < 小豆島到着 → 「大師の宿」 >

※「寒霞渓」散策と「四方指」散策  
フェリー下船の海拔0m地点から、すぐ目の前に迫る山並みのクネクネ道を武村さんの見事なドライブテクニックで登り切り、頂上から少し下った第一番目の目的地である標高612m地点の小豆島有数の観光地「寒霞渓」へ。

ここではロープウェーに往復乗車して日本三大渓谷のひとつ「寒霞渓」の素晴らしい景色を楽しみました。

乗車定員の関係で、2グループに分かれ乗車。

6分後に次の便が発車するまで、後から乗車のグループは総工費1億円をかけた冷暖房付のトイレで観光がてらトイレタイム。



<ロープウェー体験>  
深い新緑の山肌や、眼下に見える瀬戸内海を楽しんだ後、当初ここでトータル1時間15分の散策時間を予定していたのですが、2度目の下見の折、さらに2キロほど離れた標高777m地点の「四方指」での見晴らしがよりすばらしい印象だった、参加者の了解を得て、早々に「寒霞渓」を後にし、「四方指」に移動しました。



左<ロープウェー車中にて、公式写真係の木下さん>



「<sup>しほうざし</sup>四方指」は、その名の通り 360 度パノラマの眺望を楽しめる所で、展望岩に上がると島の南北両方向にある四国と本州（岡山方面）を同時



＜「四方指」にて＞  
 に見ることができる穴場ともいべき景勝地を堪能していただくことができました。

＜記念スナップ＞

※ あり得ない「奇跡!？」

二つの観光地を楽しんだ後、山を下って、次の目的地オリーブ公園へ向かう途中、道路の真ん中に丸まった布のようなものが落ちているのを運転手の武村さんとガイド席にいた大島が同時に見つけ、バスを止め、何だろうと確認のために拾いに行ってみるとそれは帽子でした。

武村さんが「見た記憶があるなあ〜」ということで、参加者に見てもらったところ何とそれは、姫路からのフェリー乗船時デッキでくつろいでいる時、強風によって吹き飛ばされUさんがなくされたものでした。

何時間も前に、また何 10 キロも離れた海上で飛んで行ってしまった帽子が、偶然にも本人が乗ったバスのドライバーによって山奥の道路で発見されるなんて正に偶然が織り成すミステリーともいべき出来事でした。

※ 現地「わらべ亭」の子どもたちとの交流



「四方指」観光や帽子のミステリーがあったりして、予定より 15 分遅れで、「わらべ亭」の子ども・保護者・ボランティアの待つ「オリーブ公園」には、15 時 15 分到着。

「わらべ亭」は、大島にとって 25 年を越える旧知の北條あさえ先生が小豆島で開いておられる「絵画教室」で、今回のイベント実施にあたっていっしょに楽しめればと

交流をさせていただきました。

そして 1 時間 45 分ほどの時間、エアロビクス指導員のゲストの出田さんの指導でリズムダン



＜上＞北條先生    ＜下＞ダンス&F ペインティン

スのひととき、お互いの顔にカラー絵の具でフェイスペインティング、キッズナビからきてくださった有松さんの指導でエコトンボ作成、お

＜有松さん＞

やつタイムなど小豆島の子どもたち 20 数名を含む、80 名余りがオリーブ公園で交流のひとつときを楽しみました。

### ※ 「エンジェルロード」 散策

ここは干潮時になると、海岸から三つ先の島まで陸続きに徒歩で渡ることができるという「恋人たちの人気スポット」（いっしょに歩くと願いが叶うという噂がされている）で、本来なら翌日のサイクリング時に訪れる場所でしたが、潮の関係で翌日は歩けない可能性があるため、ちょうど一番潮の引く 17 時半にここを訪れました。車イスの方も含め、全員、3つ先の島に向かって歩くだけでなく、潮の引いた波うち際で、海草や岩がきをとって口にしたり、貝を採ったりと思いおもいに散策のひとつときを楽しみました。



<エンジェルロードにて>



### <「大師の宿」でのひととき>

#### ・ 食事と「全体交流会」

18 時 15 分、宿に到着。部屋割りにしたがって、ボランティアと共にそれぞれの部屋に入り、19 時まで入浴と休憩。



<宿自慢の夕食>

19 時に、全員が 2 階の大広間に集まり、お待ちかね宿自慢の海の幸をいただきながら「全体交流会」の開始。

こちらで作成した座席表に沿って、宿の方の配慮でお膳には名札がつけられ、ボランティア・家族でない座席の煮魚は「骨のついていないもの」を配膳してくださるなど細かな宿の心配りに感謝しながら夕食タイムが始まりました。

司会は CVJ でもユニークなキャラクターをもつ西川さんと一般ボランティアで 20 歳のマドンナ的存在の西川さん（偶然、苗字が同じ）という両西川さんの進行で「交流会」が進められました。



<仮装しての太鼓演奏>

まず、最初に小豆島の土庄町長・岡田好平さんが私たちのイベントのためにおいでくださり、歓迎のごあいさつをいただきました。

次に、現地の太鼓サークル「かんだん」（オリーブの和名）のみなさんによるものすごい迫力のある太鼓演奏。感想文の多くにもこれほど迫力のある太鼓演奏は体験したことがないというくらい素晴らしいものでした。



<岡田町長>

さらに小豆島からのゲストが続き「NPO いきいき小豆島」から萩本篤義さんがパネルを使って小豆島の歴史や観光案内して下さり

続いて小豆島音楽グループ「SOSS」のギターと小豆島をテーマにした音楽の披露など地元の方々の大歓迎を受けて「全体交流会」が進みました。また、演奏後はそのまま帰られるのではなく、太鼓サークル「かんだん」は大阪から参加の二人のメンバーと即興の太鼓演奏、「SOSS」の方はゲスト参加して下さっていた出田さんとやはり即興ですてきな演奏と見事な振りのダンスのひとつときを楽しませて下さったりもしました。



＜即興の太鼓演奏＞

こうして小豆島の方々からの歓迎を受けた後、いよいよ参加者による「何でもコンクール」が始まりました。

事前にお聞きしていたメンバーからのカラオケ演奏や普段練習している「ヨーヨー」の披露、アコーディオン演奏、飛び入りのカラオケ演奏などがありましたが、カラオケの途中に有志が前に出て踊りを披露して下さるなど大いに盛り上がりしました。



また、バスで全員が寄せ書きをした色紙を5月生まれの4人の参加者にお渡しして誕生祝いのセレモニー、また、イベントを盛り上げるためにゲストとしておいでくださった5名の方、バスドライバーさんへの

#### ＜全体交流会を楽しむ＞

お礼の贈呈を行なったりするなどして、食事タイムを過ごしました。

その後、全員で食卓のお膳を片づけ、長テーブルを用意し、ゲストの有松さんと手あそび歌を唄いながら「紙人形製作」、そして「NPO ひらかた自助工房」の柴田さん、佐藤さんと共にイベント参加記念品となる「万華鏡」製作を行うなどして、予定通り9時に「全体交流会」を終えました。

#### ・ 夜 の 「 参 加 者 交 流 会 」

「全体交流会」で1日目の公式日程は終了し、全員いったん部屋に戻り、入浴や就寝準備。そして、午後10時から同じ大広間で、有志により夕食時には嗜まなかったビール・日本酒・焼酎などアルコール類も用意され、行きのバス車中ではお互いの顔が見えない状態だったのですが、全員の前で再度の自己紹介をしたり、テーブルごとで家族・ボランティア・参加者の交流がくつろいだ雰囲気の中で、深夜12時まで行なわれました。



#### ＜第2日目＞ 5月30日（日）

#### ・ 朝 食 そ し て 出 発

朝食は午前7時から、サイクリングに備えて全員がお腹いっぱいごはんをいただきました

た。

今回、利用させていただいた「大師の宿」は小豆島では歴史のある宿泊施設で、お部屋におかれていた“大師まんじゅう”をはじめ、小豆島特産の多数の自社製品のお土産を1階の売店で販売されており、それも全商品1割引で販売してくださったため、多くの方がここで土産を仕入れてバスに乗り込み、レンタサイクルをお借りする石井サイクルに向かいました。

## ※ 7 つ の お 楽 し み と 瀬 戸 内 の 美 し さ を

### 満 喫 し た 小 豆 島 サ イ ク リ ン グ !!

バイクのフィッティングを終え、ヘルメットをかぶったメンバーは、16名の「バス移動



グループ」が2列に並び拍手で見送る中、5台のタンデムグループ(10人)を先頭に、Aグループ(14名)、Bグループ(13名)の3つのグループのリーダーを先頭に15キロ(途中5つの登り坂)の快晴の空の下サイクリングに出発しました。

1つめのお楽しみはトイレ休憩も兼ね、昨日訪れた「エンジェルロード」。

2番目は源平の合戦で知られたまっ平らな頂上を見せる四国・屋島を真正面から眺める海岸。

#### <タンデム先頭にスタート>

3番目は、瀬戸内ではたいへん珍しい「海がめの産卵の碑」がある海岸。ここでは休憩も兼ね、20分近い海岸散策と4番目の目的地である岡山⇄坂出を結ぶ「瀬戸大橋」の遠望を楽しみ、5番目の目的地、壺井栄の小説「二十四の瞳」で有名な“平和の群像”前広場へと進みました。

ここでは「バス・徒歩移動組」も合流し、全体の記念写真を撮り、今回のサイクリングの6番目の目的地であり最後の観光地である「土渕海峡」へ。

ここはギネスブック認定の世界一狭い海峡で、ここ(幅9・93メートル)を渡ると、町役場で昨夜あいさつして下さった岡田土庄町長の名前で通し番号の入った「横断証明書」(表紙付で200円)を発行してもらえることもあり、多くの方が記念に買い求めておられました。



#### <グループごとに走る>

※ 社 会 福 祉 法 人 「ひ ま わ り 福 祉 会」 施 設 参 観  
石井サイクルで、レンタサイクル返却後、バスで5分ほどのところにある知的「障害」者通所授産施設と児童ディサービスを行なっておられる「ひまわり福祉会」へ。

休日にもかかわらず岡施設長が施設参観と施設の概要説明ために対応してくださり、小豆島の「障害」児・者福祉の一端についてのお話を聞かせていただくことができました。

※ 「小豆島ふるさと村」で昼食、  
そして、大阪への帰路の途へ。



### <昼食のラーメン>

13時過ぎと少し遅くなったのですが、昼食会場の「小豆島ふるさと村」へ。サイクリングで空腹のなか、用意が整うまで係りの方よりソーメン製造についてあれこれレクチャーを受け、実際参加者数人が「ソーメンの箸分け体験」という貴重な体験をさせていただきました。

昼食は量的に少し物足りないという声もありましたが、エネルギーを補給し、イベントで予定した日程をすべて無事終了することができました。

帰路のバス車中では、残されていたサイクリングのお楽しみの7番目である石井サイクルのオーナーが趣味で飼育されている「日本蜂蜜」の試食を楽しんだり、栗山さんのアコーディオン伴奏で歌を唄ったり、2日間のイベントにちなんだクイズ（正解者にはイベントで用意してあまったおつまみやのみもの、差し入れの品で食べきれなかったものなどが賞品として配布された）を楽しんだりしながら、往路の逆コースで福田港よりフェリーに乗船し姫路港へ。その後、JR 姫路駅・JR 茨木駅、阪急茨木市駅、京阪枚方市駅で、それぞれがバスを降り楽しい2日間の旅を終えました。



### ※ 2 日間の日程を通じて

3年間、このイベント企画に関わり、1年目の感想は「一人ひとりが主人公になった日！」、2年目が「思いやりと感動にあふれた2日間！」という副題で「報告集」をまとめましたが、今回は「みんなで作りあげた楽しい思い出の2日間！」という「ことば」がピッタリというイベントになりました。

というのも帰路のバス車中での恒例として「2日間の感想」を全員がマイクを持って話をするのですが、今回の特徴として、ほぼ全員が感想の最初に「楽しかった」ということを述べられていました。

「楽しいという雰囲気はひとりでは生まれるのではなく、参加者一人ひとりがイベントを盛り上げようとする気持ち、また、お互いを思いやるというボランティア精神が見事に結実し、全員の力の結集した中で作りだされたもの」だと思っています。

最後になりましたが、実りある2日間が過ごせたことは、参加者・ボランティアの方々のご協力をはじめ、現地で今回のイベントに関わってくださった「大師の宿」のスタッフの方々をはじめ、わらべ亭のみなさん、素敵な演奏を聴かせてくださったゲストの方々など多くのご協力があって成し得たイベントであったと心より感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございました。



(おおしま まさひろ)

## 【Ⅱ】「小豆島」サイクリングの旅

＜公式記録担当＞ 竹内 義晴

### 「2010 小豆島サイクリング（'10/5/29-30）」

08年、09年と2年にわたり開催された「しまなみ海道」イベントに引き続き開催された「小豆島イベント」。参加者58名（うち障がい者21名）が集い、現地でのイベントを盛り上げていただいた方々を含め総勢90名で、晴れて穏やかな気候の中、サイクリングや観光、各種イベントを楽しみました。



＜「二十四の瞳」の像の前で＞

#### 2010年5月29日（土）

##### ● バス、フェリーを乗り継いで、いざ小豆島へ

朝から爽やかな快晴の中、今回のイベントへの期待を胸に、笑顔で続々と参加者が集まりました。参加の子どもたちも元気いっぱい、お母さん方に見送られてバスに乗り

込み京阪枚方市から阪急茨木市、JR 茨木まで、1人の欠席や遅刻もなく、出発しました。

バスの中では、主催者の竹沢代表より「事故なく楽しいイベントにしましょう」との挨拶があり、企画担当者からのしおり配布、イベント概要説明、参加者による自己紹介へと進んでいきました。参加ボランティアの方からは、ニューヨークでの核兵器をなくす署名活動の報告など、興味深い話を聞きながら、無事姫路港に到着しました。

姫路からの参加者と合流し、11時15分にフェリーに乗船、1時間40分ほどの船旅を各自楽しみました。デッキに出ると、少し風は冷んやりとしましたが、海は穏やかで所々に瀬戸内の小さい島が見渡せ、何とも開放感満点の気持ちよいひとときでした。



＜フェリーでくつろぐ＞

各自楽しみました。デッキに出ると、少し風は冷んやりとしましたが、海は穏やかで所々に瀬戸内の小さい島が見渡せ、何とも開放感満点の気持ちよいひとときでした。

客室に戻り、待ちに待ったヒレカツ弁当の昼食。朝早く集まった子どもたちは、競うように食べ始め、またたく間に完食。再びデッキに飛び出したり、窓の外を眺めたり、お腹がふくれて眠くなったのか、少しうとうとしたりと思いいいに過ごし、程なく小豆島、福田港に到着。

### ● 寒霞溪（かんかけい）、四方指（しほうざし）の見事な景観を眺める

福田港より日本三大渓谷のひとつ、寒霞溪に向かいました。CVJメンバーの海外自転車旅や参加ボランティアの日本一周マラソンの旅など、このイベントならではの体験談を楽しみながら、どんどん高度を上げ、寒霞溪に到着。例のふるさと創生の際に建てられたという1億円のトイレを見学後、ロープウェー乗り場へ。間近に見える巨大な岩と緑豊かな景色、そして眼下に広がる瀬戸内海がきれいに見渡せ、一同大満足



＜寒霞溪からの眺め＞

CVJメンバーの帽子を何と発見！無事回収しました。これもこのイベントの意義、前途を祝していただいている証拠なのでしょうか。

でした。

さらに、当初は予定していなかった四方指（しほうざし）、標高777メートルに向かいました。ここはまさに名前の通り、本州、四国を眺められる絶景ポイント。「きれい！」、「すごい！」、「・・・（声にならない）」。素晴らしい天気、機転を効かせて予定変更した企画担当者、そして細いつづら折りの道を慎重に運転していただいたバスの運転手さんに感謝です。

四方指からの帰路、ひとつの奇跡が・・・。

行きフェリーの中で飛ばされてしまった

### ● 「小豆島わらべ亭」訪問、交流のひとつ

絶景観光を終え、次のイベントの場、オリーブ公園へ。車中では、日頃よりボランティア活動を積極的にされている、ワークきらり、キッズナビ「わかば」のゲストの方々より活動内容のご紹介をいただきました。

オリーブ公園は、日本でのオリーブ発祥の地を記念した、綺麗に整備され、見晴らしの良い場所です。この公園の野外ステージ辺りで、地元の「小豆島わらべ亭」の子どもたちとの交流のひとつ。

まずは、エアロビ講師のゲストを中心に、トトロ、ポニョのおなじみの曲に乗せて、ダンス。元気一杯の子どもたちをよそに、日頃の運動不足カリズム感のなさか、覚束ないステップの大人もちらほら見られましたが、楽しく体を動かし、一層雰囲気が盛り上がりました。続いて、「小豆島わらべ亭」の代表者の方の呼びかけで、2人1組でジャンケン大会。勝った人が負けた人にフェイスペインティング。大人たちにも「30歳若返りますよー」と呼びかけ、みんな嬉々として挑戦していました。

エコトンボ作りでは、キッズナビ「わかば」からのゲストの指導により、牛乳パック



＜音楽に合わせて元気にダンス＞

をり抜いたものに好きなペインティングをして、ストローに取り付け。なかなか羽根の角度付けが難しく、試行錯誤。各々の作品を手し、しばし飛行の共演。

最後は、地元の子どもたちがあらかじめペイントしたハンカチをつなげたフラッグをバックに、おやつのひとつと記念撮影。盛りだくさんのイベントでした。



〈エコトンボ〉

### ● 「エンジェルロード」 散策

午後5時を過ぎ、恋人たちの人気スポット「エンジェルロード」。干潮時間になると、小豆島に近接した3つの島と陸続きになる場所です。参加者は、のんびりと海岸を散策。今日の出来事を振り返るとともに、明日のサイクリングの楽しみを語りながらのひとときを過ごしました。

### ● 「大師の宿」 到着、夕食、交流会

本日の宿泊先、「大師の宿」に到着。部屋割にしたがって、本館、別館の各部屋に入り、休憩、入浴を済ませ、午後7時に夕食会場の大広間に集合。夕食は、海の幸を中心に、さぬきうどんなども入った盛りだくさんなご馳走。障がい者の煮魚は骨を丁寧に取っていただくなど、大変細かい心遣いをしていただき、おもてなしの心を感じることができました。



〈盛りだくさんの夕食〉

まずは、岡田・土庄町長からの歓迎のあいさつ。「共生できる地域を作るのが行政の目標」という言葉が印象的でした。自然と人、若者と老人など、色々な共生が考えられますが、こうした姿勢が小豆島を魅力のある土地としているのでしょうか。

続いて、小豆島和太鼓サークル「かんだん」の演奏。大小さまざまな太鼓を用いての腹の底に響くような力強い音。時にはコミカルなパフォーマンスを交えながら、次第に演奏に引き込まれていきました。メンバーは、中学生から52歳までの幅広い年齢層にわたるとのことで、こうした地域にしっかりと生きている伝統文化の大切さを十分に感じることができました。

小豆島観光案内、参加者のカラオケ、ダンス、ヨーヨー、久しぶりという太鼓の演奏など、夕食を楽しみながらも続々とイベントは続きました。

そして、地元2組目のゲスト、小豆島音楽グループ「小豆島オリーブサウンドサービス」(SOSS)の登場。本日のイベントを忘れて風呂に入っていたという、ボーカル&ギター演奏の方は、パワフルな歌声で大いに盛り上げてくれました。披露された「小豆島パラダイス」という曲は、まさに地元愛。参加ゲストとの歌とダンスの即興コラボもなかなかのものでした。

アコーディオン演奏で歌を楽しんだり、誕生日を迎えた参加者に対し寄せ書きのプレゼントがあったりした後、夕食もあらかた済んだところでお膳を片づけて工作の時間に。昼に続き、キッズナビ「わかば」の方の指導により、紙あそび。物語を語りながら紙を折ったり、切ったりして、様々な形への変化を楽しむというもの。少し切り方を間違えただけでも変てこな形になったりして。しかし、それも含めてお互いの作品を比べ合っ、笑い合うというのが面白い企画でした。

枚方自助具工房の方々からは万華鏡製作の指導。子どもたちはもちろん、大人も童心に戻っての製作でした。日頃工作の機会などない人が多く、お互い「あれ?これで良

かったっけ？」などと言いながら、この世にひとつの作品を作り上げていくのが、微笑ましい光景でもありました。最後に、イベントに大きな貢献をしていただいたゲストの方々への謝辞、竹沢代表からの挨拶で交流会を締めました。

### ● 夜の「参加者交流会」で大いに盛り上がる

子どもたちは今日の疲れでぐっすりと就寝。ボランティアの中には、そのまま一緒に寝てしまった人もいたようですが・・・

この後は、お酒を飲みながらの交流会。今日一日無事終わり、皆さんほっとしたリラックスした様子で杯を交わしていました。

## 第2日目 2010年5月30日（日）

### ● いよいよメインイベントのサイクリングへ

前日の疲れも見せず、皆さん元気な顔で朝食をあわただしく済ませ、レンタバイクの石井サイクルに向けて出発。半島一周、約15キロのサイクリングの開始です。

このサイクリングのために用意した5台のタンデム自転車を先頭で、Aチーム、Bチームの順に出発。

タンデム自転車では、視覚障がいの方など、日頃自転車に乗ることのできない方に、自転車で風を切る楽しさを伝えることが大きな目的です。拍手を受けながら、皆さん、意気揚々とスタートして行きました。

この日も快晴で、絶好のサイクリング日和。ペダルを踏む足も快調に、1日目に訪れたエンジェルロードで休憩後、源平合戦で有名な屋島が望める場所まで到着しました。途中の坂では、やや息が上がる人もいましたが、お互いに励まし合いながら、無事到達。

ここで、なぜかAチームを見失い、Bチームがタンデム自転車の後続についてしまいました。「Aチームはどこへ？」と思い始めたところにAチームが到着。どうやら回り道をしていたようで、元の隊列に復活。

ここからは海を左側に眺め、潮風を感じながらの走行は非常に気持ち良く、鼻歌でも口ずさんでしまいそうなほどでした。やがて「海がめ産卵の碑」に到着。ここでアクシデント。参加者の子どもが下り坂で転倒し、擦りむいてしまいました。応急措置の



後、サイクリングを続行。こういうイベントだからこそ、頑張れたのかもしれない。

一旦自転車を降りて、海岸を散策。遠くに瀬戸大橋を眺めることができました。海水も綺麗で、太陽の光を受けてキラキラ



### ＜タンデム自転車で海岸線を快走＞

輝いていたのが印象的でした。サイクリングに参加されなかった方のバスからの声援を受けながら、走行を続け、壺井栄の小説「二十四の瞳」で有名な「平和の群像」に到着。さらに、ギネスブック登録の世界一狭い「土渕海峡」を横断。海峡といっても、わずか数メートルの小川にしか見えず、世界一のアイデア賞といったところでしょうか。海峡を通るジェットスキーとカヤックを見送って、元の石井サイクルへ。1人の途中棄権もなく、全員でゴールしました。

## ● 「ひまわり福祉会」施設参観、シンパクの木見学

「ひまわりの家」を訪れ、社会福祉法人「ひまわり福祉会」岡施設長より、お話を聞き、施設の参観をしました。施設に通う知的障がい者の仕事は、オリーブに関わる作業、ソーメン、醤油の箱折り、空き缶の回収、廃油利用の石鹸作りなど。施設の中は清潔に保たれ、施設に通う方への温かい気配りが感じられました。

施設の庭には、宇宙飛行士若田さんとともに宇宙ステーション「きぼう」で4カ月間宇宙遊泳した、ヤマユリのお母さんにあたるという苗が植えられていました。

施設の隣、宝生院には特別天然記念物で世界一といわれているシンパク（真柏）の木が見られました。幹の周囲は、16.6メートル、樹齢1600年にも及ぶ、見る者を圧倒させるには十分な立派なものでした。



<係の人の指導で箸分け体験>

## ● 「ふるさと村」でのソーメンの箸分け体験

「ふるさと村」に移動し、ソーメンの箸分け体験をさせていただきました。1本で4~500メートルも伸びるといふソーメンが、伸びるかどうかは塩加減で決まるとのこと。参加者が体験させてもらおうと、面白いように伸び、仕込みの大切さを実感しました。体験の後は、ソーメンを堪能。暑い日のサイクリング後でしたので、のど越しの良いソーメンは最高でした。

## ● 思い出を胸に帰路へ

楽しいひと時はあっという間。フェリー乗船を経て帰路へ。お菓子やスポンサーからの寄贈品をかけたクイズ大会で盛り上がり、全員の感想を聞きながらそれぞれの目的地へ。参加者それぞれが思いのたけを元気よく、ユーモラスに語っていただきました。皆さん楽しんでいただいたようで、主催者としても一安心でした。

## ● 最後に

自転車という手軽な乗り物。普段は移動の手段としか考えていない人も、一緒に少し長い距離をサイクリングしてみると、「風が気持ちいい」とか、「あー、この坂大変だ！」などと、気持ちをストレートに会話していたのが印象的でした。こうした自然と共感できるところが自転車の魅力なのかもしれません。車では、運転手は運転に一生懸命、同乗者は思い思いに携帯を眺めたり、居眠りしたりと、なかなか一体感が生まれるものではありません。思い起こせば、子どものころは、友だちと一緒に自転車でいろいろなところに出かけることが、ワクワクするような楽しみでした。あれも、本能的に仲良くなる手段として使っていたのかもしれません。

今回のイベントは、大人から子どもまで、初対面の人も含め色々な人が集い、交流するもの。こうしたイベントにサイクリングをするというのは、本当の意味で参加者の気持ちを一つにするのにとっても良いことだと改めて感じました。今後も自転車を通じて、あらゆる人に楽しんでもらうという、このようなイベントを続けていきたいと感じました。



(たけうち よしはる)

## 〔Ⅲ〕 主催者より

### 「お礼」

サイクルボランティア・ジャパン (CVJ) 代表 竹沢 荘一

全国各地の自転車好きが集まって、自転車の楽しさを多くの人に味わってもらえるようにお手伝いをしようとサイクルボランティア・ジャパン (CVJ) は設立されました。

設立以来、全国各地ではほぼ毎月自転車で走る会を開いて、マナーやトラブル対策、簡単な修理方法などについて、楽しみながら勉強してもらっています。

サイクリストによる今までにないユニークな活動は、マスコミに再三取り上げられ、注目を集めつつあることは、無上の喜びとするところあります。

われわれ CVJ の活動のなかで、最もユニークで大きなものは、「障害」をもつ方々をお世話しつつ、60余名で過ごす毎年初夏の1泊サイクリングであります。

過去2回は「しまなみ海道」、今回は船に乗って小豆島と、普段はなかなか行けないところを選んだのが気に入っていただけなのか、さらに CVJ 副代表の大島先生の広くて多彩な人脈と、万端行き届いた驚異的な企画力のおかげにより、多くの方々に喜んでもらうことができたようです。また、帰りのバスのなかでも、文字通り全員が「楽しかった。来年もぜひ参加したい」と声をそろえて感想を述べてくださったことは何にもまさる喜びでありました。

最後になりましたが、今回のイベントにボランティアとして各地から参加して下さった方々、毎年快く、また注意深く、われわれを連れて行ってくださる京阪バスの運転手の武村さん、日頃縁の下の諸準備に快く協力し、また遠くより自弁で参加してくれた CVJ のメンバーの方々に心からお礼申し上げます。(2010年7月10日) (たけざわ そういち)



＜竹沢代表＞

## 〔Ⅳ〕 参加者の感想 一順不同一

### ① 小豆島サイクリング

岡田 真美



＜右・岡田さん＞

5月29、30日に小豆島へサイクリングに行きました。朝、集まった時、1年ぶりにボランティアさんと会えてうれしかった。

姫路港まで池田さん(注；岡田さん担当のボランティア)と仲良くなって、トークした。

姫路港に着いて、トイレ休憩をとって、バスに乗り込んだ。CVJの人が「バスごとフェリーに乗るで～」と言ったので、『えっ、バスごと乗るのか』と思った。

フェリーに乗って、しばらく海をながめた。

『りくと海がきれいに見えて、きれいなあー』と思った。

お昼には、ひれカツごはんを食べて「おいしい」。

小豆島福田港に着くまでに他のボランティアさんとも仲良くなった。

CVJの人が、「そろそろバスに乗ろう」と言って、いっきにみんながバスに乗った。

ロープウエーで寒霞溪を見る時に、景色の見えやすいところだったので、きれいに見えてうれしかった。



<野生のサル>

往復ロープウエーに乗り、戻ってバスに乗ると、友人のゆかりが「猿だ」と叫んで、バスからとびだして、猿にかけよったので、あせった。CVJの人に止めてもらえてよかった。みんなで見ると、うれしかった。

エンジェルロードは、もともと海なのに道になっていて、海草や貝がらがあって珍しかった。

ボランティアさんが、「これ、食べられるで」と言って、食べていてびっくりした。

木に貝がらが飾ってあって、奥に仏さんがいてはったので、ゆかりと拝んだ。

大師の宿で私の部屋はせまかって、あせった。

池田さんが、「二人やし」と言ってくれたので、ゆっくりした。TVがあったので、30分間コナンを見てから、本館のお風呂に行った。せまかって、皆いっぱい入っていた。去年いっしょだったボランティアさんに体を流してもらった。うれしかった。

食事といっしょにレクリエーションもしました。地元の人のお太鼓演奏があって、CVJの人も自分たちが普段から練習している曲を披露してくれました。

司会のあいさつがあって、カラオケ大会が始まりました。みんないろんな曲を歌ってくれました。私はゆかりと『翼をください』の手話をしました。

二番の歌詞の手話は教えてもらってないので踊りでごまかしました。うまく行ってよかった。

施設の指導員さんのレクリエーションで、万華鏡づくりや画用紙細工をした。作り方がわかってよかった。

寝る時、池田さんと30分トークした。10時に消灯して、しばらくゴロンゴロンとしたけれど（いつもそんなふうになります）、あとは朝までよく眠った。

朝ごはんはたくさん食べた。皆が行くので私もお土産を買いに行った。試食しておいしいものを家族のために買った。

サイクリングは、初めは平坦だったけれど、だんだん登り下りが出てきて、3つめの坂が苦しかった。かめの像を見に行くのに余分の坂があって、うんざりした。でもかめの像はかわいかった。



4番目のぐねぐね坂で、竹沢さんが一人で行ってしまったので、あせった。ずっとくっついて行きたかった。峠まであと100メートルぐらいのところまで足がパ

ンパンになって仕方がないので、自転車を押して登った。その後、まっすぐの下りだった。



<岡田さん>

風を切って気持ちよかった。その勢いで次の坂を登ったが、また途中から押して歩いた。そしてもう一度勢いよくくだった。

『どんだけ、坂、あんねん』と思った。

バスで観光の人と合流して二十四の瞳の像で写真をとった。カメラマンが場所をかえたので、どっちに向いたらいいのかとまどい、皆がゴチャゴチャゴチャになった。カメラマンが「そのまま寄って」と言ったが、いつうまくならんだのか、わからなかった。

『なんでゆかりまでカメラマンしているねん』と思った。

世界一狭い海峡を見に行つて、世界一狭い海峡を見た証明書を200円で買った。

『お土産、またできた』と思った。サイクリング最高!!

(おかだ まみ) 茨木市在住

## 「お母さんからの手紙」

岡田 英美

大島先生へ

今年もたいへん楽しく過ごさせていただき、ありがとうございます。

月曜日、ちょっと辛そうながら頑張つて起き、学校生活を無事過ごしてまいりました。

ぼつぼつと楽しかったことを、話してくれています。

さっそく写真を見せていただき、ありがとうございます。

「自然の風が気持ちよかった」、「海がめっちゃ、きれい」

との真美の言葉が、よりリアルに伝わってまいりました。

親馬鹿かもしれませんが、昨年より一歩成長している感じが感じられ、より嬉しく存じております。準備から後片付けまで、皆様お忙しくしていただいたことと存じます。

皆様どうぞお疲れ出ませんように、ご自愛くださいませ。(おかだ ひでみ)



<下村君>

## ② 「一人で参加…」

下村 亨 (代筆 下村 恵美子)

今年は、初めて一人で参加しました。

少し不安だったけど、がんばりました。

ボランティアの竹内さんがやさしかったので安心しました。

今年も矢沢君が一緒だったので楽しかったです。

矢沢君のお母さんがすもも&バニラのソフトクリームを買ってくれました。

とてもおいしかったです。

小豆島には初めて行きました。きれいなところがいっぱいあって、自転車で走るのはとても気持ち良かったです。坂道は今までで最強にしんどかった。

でも、また来年も絶対参加したいです。

＜以上が享の感想です。本人の感想の言葉をつなげました＞

(しもむら あきら 母；えみこ) 茨木市在住

### ③ 「素敵な体験」

矢沢 伸子



今年も晴天に恵まれました。(関係者の方々の日頃の行いの賜物か、強力な晴れ男のお陰でしょう。)

息子一真は先にバスで出発して、私自身は仕事の関係で昼から追いかける事となりました。中学3年生とはいえまだまだのんびりした息子の事、少し心配でしたがボランティアの大畑さんが付いてくださるとの事でお任せする事にしました。

そして、私はというと久々の遠出。

＜矢沢君＞

PCで調べてみたものの最後のフェリーに乗り遅れたらなどと考えると、とても不安でした。そんな気持ちを察して大島先生が岡山在住のCVJメンバーの金木さんに連絡を取っていただきました。

パタパタと乗り込んだ新幹線を後に、岡山駅で出口に向かうと、緑色のメンバーシャツにこやかな笑顔で金木さんが迎えて下さいました。新岡山港までのドライブの間、フェリーの間 ガイドさんよろしく話題豊富なおしゃべりに時間はあっという間に過ぎました。

久々の独身(?)旅行気分を満喫し、息子への心配もすっかり忘れた頃、バスと合流。大畑さんからは「大丈夫でしたよ」とのお言葉をいただいてホッとしました。

本人はというと、「ロープウェーに乗ったよ」のみで呑気な様子。

でもある意味、親と離れて過ごす事も無難にこなせるようになったかと納得しました。

初日の晩は、恒例の……。今年は地元の方々の太鼓演奏もあり趣向に富んだ会でした。

一真も今年はヨーヨー技を披露。家で失敗していたのが、一発で決まり大満足。観る宴会から参加する宴会の醍醐味を知った様です。

さて、いよいよメインイベント『小豆島サイクリング』

金木さんをリーダーに出発しました。

途中、成長著しい少年3人(息子含む)に順位を譲って何度目かの坂道を登る中、ベテラン

金木さんに食らいついていく3人の姿はたくましく、また彼らなりに順番を調整している姿



＜「二十四の瞳」の像の前で＞

は、母達の手を離れて男の人の社会に近づいてきている。いつの間にか親離れしているんだと感心しました。

海沿いの道はどこまでものどかで、ゆったりとした時間の流れ。

“気持ちいい！”の一言に尽きました。

途中立ち寄ったギネス公認『世界一狭い海峡』は遠目で観るとなんともダダ大きい建造物。

しかし、偶然の演出が……。ちょっとカッコをつけたジェットスキーチームが水しぶきを上げて登場、思わずみんなで歓迎の拍手。次にはゆるやかなカヌーを漕ぐ人たち。なんて楽しい偶然でしょう。やっぱり海峡なんだなあと妙に感動し、自転車の寄り道ならではの素敵な体験でした。

たくさんの方々が協力・参加して、たくさんの準備や配慮があつて『小豆島サイクリイベント』は無事にあつという間に終わってしまいました。

今年も親子ともに美しい風景と楽しい出会いをいただきました。

ほんとうにありがとうございました。来年もぜひ参加して、みなさんと一緒に体験や感動したいです。

(やざわ のぶこ) 吹田市在住



<清生さん>

#### ④ 「心地よい風」

清生 千代

こんばんは 清生です。

土曜日と日曜日の2日間は大変お世話になり有難うございました。

2日間とも天候に恵まれ海と空がとってもきれいで、自転車に乗っていても風がこちよくて本当に参加させてもらって良かったと思いました。

(せいりゅう ちよ) 神戸市在住

#### ⑤ 「楽しかった」

森 俊博(代筆 森 友子)

こんにちは。俊博がお世話になり、有難うございました。

持たせた着替えなどが、そのままだったので、嫌！と言ってボランティアの方を困らせてしまったのでは、ないでしょうか？

最近、反抗期なのか、なかなか動いてくれず、動くまでに時間がかかってしまい、ご迷惑をお掛けしたと思います。申し訳ありませんでした。

本人は、元気に楽しかったと言っていましたので、参加させて頂いて本当に良かったです。皆様にお世話になって、楽しい旅行ができ、本当に有難うございました。

今朝は、プレゼントに頂いた万華鏡を、みんなに見せると言っていて、持って行きました。



<森君>

カバンに飲み物やお菓子など、いっぱいおみやげが入っており、有難うございました。  
ボランティアの方々、また先生、奥様、皆様方に、本当に、お世話になり有難うございました。宜しくお伝え下さい。

(もり としひろ 母；ともこ) 茨木市在住

## 〔V〕 ボランティアの感想 一順不同

### ① 「小豆島サイクリングの旅」

ボランティア 栗山 勝吉



＜栗山さん＞

たまに訪れるよそ者には、オーバーに言うと夢のような島だ。  
私は10年ほど前に当時所属していた「山の会」からオリーブマラソンに参加して以来二度目の“小豆島”だ。

姫路港から左手に家島諸島を眺めての船旅がまた楽しい。

もう顔馴染みになった京阪バス武村ドライバーさんの誘導で初めての“寒霞溪”へ。ロープウェーで緑の溪谷美を楽しんだ。

これが秋には真っ赤に燃えるのか!!

さらに本州と四国側の両方の海が同時に見える展望台“四方指”  
(しほうざし=標高777m) へ。

次に訪れたのは緑の丘の広場「オリーブ公園」で、「小豆島わらべ亭」のよい子たちが用意してくれた楽しいお絵描き(フェイスペインティング)やゲストのエヤロビクスのリーダーといっしょに野外でのリトミックなどでふれあいのひとときを過ごした。

「わらべ亭」のみなさんありがとう。

日が傾きかけた頃、恋人たちの散歩道「エンジェルロード」へ移動。陸続きになった3つの島を歩いて渡った。

ここは満潮時には海になるそうだ。途中の岩場にへばりついた青海苔を採って食べた。天然のほどよい塩味でウマイうまい、やめられへん。

こうして半日を過ごし18時過ぎ、今夜の宿舎「大師の宿」へ着いて入浴の後、にぎやかな宴会が始まった。

まず初めに地元土庄町長さん自ら歓迎のご挨拶を受けた。田舎やなァ…。

近頃いろんなイベントで太鼓の演奏を聴く機会が多いが、ここ小豆島太鼓サークル「かんだん」の太鼓はすごい迫力! 「障害」をもった方々のカラオケ発表、現地NPO法人の方からの観光案内、小豆島オリーブサウンドの方のギターと歌のひとときがあり、食事の後は楽しいおあそびがはじまった。

指導がよいと私にも作れるんだ。キレイな万華鏡やペーパークラフトづくりを楽しむ。

さらに「何でもコンクール」では、私が持参のアコーディオンで「赤とんぼ」「スワニー河」、それに私も含め4人の5月生まれを祝って「ハッピーバースディ」を演奏した。



5月30日。さあー、今日が本番。朝食をすませて8時前、バスで旅館を出発。レンタルバイクとヘルメットの調整後、各班に分かれて“牛の頭”にあたる土庄町の前島地区の半島一周の旅に出た。天気は上々、五月晴れ。

T君、K君、Mちゃんたちは今年も元気で参加。A君は今回お母さんの付き添いなしで参加した。エライ！ ボランティアのHさんは今年も電動バイクで参加。よろしくたのんます。

瀬戸内海を見下ろしながらルンルン気分で、5つの坂を乗り越えて快走した。半島をほぼひと廻りしたところの「二十四の瞳」の「平和の群像」前で全体の記念撮影。

最後にギネスブックにも載る世界一狭い「土淵海峡」を歩いて渡った。10メートル足らずのどこにでもありそうな橋だが、眼下の水が海水というだけで世界一！ホンマカイナ？

昼前、レンタルバイクを返却して「ひまわり福祉会」の施設見学。施設長さんのお話を聞いた。施設の入り口に植わっている1本のゆりの花が、これまたすごい！同じ球根の1株を今、大空を飛んでいる宇宙ステーション内で咲くかどうか実験中で、同じ姉妹株をこの園生が育てているそう。また、そのすぐそばのお寺の境内には樹齢1600年の国指定特別天然記念物「真柏樹」が大空を覆っている。小豆島はすごいことばかり。

13時「ふるさと村」ではT君、Mちゃんたちが「ソーマンの箸分け体験」に挑戦して、昼食としていただく。

15時半出航の姫路行きフェリー船内でくつろいだ後、京阪バスで帰路についた。車中では賞品つきクイズやYさん、Mさんたちの好きな「翼をください」の曲を私がアコで弾いたりして、アツという間に無事帰阪しました。



<バス車中で>

大島先生、参加者のみなさんお疲れさまでした。ありがとうございました。

(くりやま かつきち) 枚方市在住

## ② 「感動の2日間」

ゲスト 出田 あゆみ



<出田さん>

小豆島での2日間、ほんとうにありがとうございました。

あっという間の2日間でしたが、準備は相当にたいへんなものだったと思います。そんなイベントにお声をかけていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。私にとっては「感動の2日間」でした。

最初は、自分に何かできるだろうかと不安もありましたが、子どもたちをはじめ、みなさんととても明るく、温かく迎えてくださったことにまず感激…。そして車中でのみなさんの経験談に自分の小ささを感じつつ

感激…。美しい景色に感激…。

現地の方たちとの交流の際には、私も少しレクリエーションをさせていただきましたが、みなさんがまっすぐな眼で一瞬懸命動いてくださり、うれしさに涙が出る思いでした。

子どもたちの素直さ、イベントを楽しもうと、また盛り上げようという温かい心をもったみなさんと時間を過ごせたことが幸せで幸せで…。日々の仕事で自分を見失いかけていた私でしたが、大切なことに気づけたような心地です。



<F ペインティング>

その他、サイクリングでの美しい景色をはじめ、すべてに感謝しきりの2日間でした。

おじさん（注；出田さんは企画担当大島の姪にあたります）が少しでも多く、少しでもたくさん、みんなに楽しい思いをしてほしいという気持ちで動いてくださっていることがたくさん伝わってきて、ほんとうにありがとうという気持ちでした。

また、おばさんには個人的に私の相談にも乗っていただき、心安らぐ思いでした。ありがとうございました。いろいろなバックグラウンドがありながら、何かしらのきっかけがあり、今回のイベントでいろいろな方と出会えたことがほんとうに幸せでした。

おじさん、おばさんには小さい頃からほんとうにお世話になり、かわいがっていただきました。これからは私にできることがあるなら、ぜひやらせていただきたいです。

「行き遅れ」の姪っ子ではありますが、今後ともどうぞよろしく願いいたします。取り急ぎ、御礼まで。ほんとうにありがとうございました。

（いずた あゆみ） 神戸市在住

### ③ 「10 数年ぶりの小豆島」

ボランティア 大西輝政

この度、十数年ぶりに小豆島に行くことができ、とても感激しております。

姫路からのフェリーは一度乗って見たかったなあと考えていたので今回乗れてよかったです。

（行き帰りとも満員でしたね。）

小豆島に上陸してから地元のお子さんたちとの交流イベントや貴重な絶景スポットの案内等とても印象深かったです。

宿に着いてからの夕食時の交流会、とても楽しかったですが、一番印象深かったのが「エイシャッシャアゲイ」（タイトル失念。すみません）の唄で今でも事あるごとになぜか「エイシャッシャアゲイ エイシャッシャアゲイ」と口ずさんでしまいます。交流会後の皆さんとの

<大西さん>

語りもいろいろなお話が聞けて楽しかったです。次の日の島めぐり、印象に残ったのは高松港や瀬戸大橋を望めるスポットに行けたこととそうめん工場のそうめんが見事だったことです。あと地元の知的障害者施設の見学も私自身現在同様に知的障害者施設に勤めているためとても参考になりました。



あつという間の2日間でしたがずっと好天に恵まれ何よりでした。また来年も参加させていただければと思います。大島さんはじめスタッフの皆様お疲れ様でした。そしてありがとうございました。 (おおにし てるまさ) 神戸市在住

#### ④ 「 疲 れ が 吹 き 飛 ん だ 瞬 間 」

ゲスト NPO 法人 ひらかた自助具工房 代表 柴田 芳昭



NPO法人 ひらかた自助具工房の柴田芳昭です。

この度、CVJの大島さんより『小豆島』イベントにゲストとして何か記念になる物を、障がい者の方、及び みんなと一緒に楽しんでもらえるようなものを作りたいと言う事で、参加協力の依頼がありました。

我々の、ひらかた自助具工房は、高齢者や障がい者が日常生活に困難になった人の動作を助ける道具や、リハビリ道具、及び癒しの道具を作

っているボランティアグループですので、CVJの団体も同じ、障がい者を対象にしたイベント活動をされているので、私たちも協力しましょうと言う事で、ゲストとして佐藤と柴田の二人が参加させてもらいました。

さて何を作るか検討し、みんなで楽しんでもらう物で万華鏡を作ってもらう事に決まり、準備にとりかかりました。数が多いので(60個)大変でしたが、みんなの喜ぶ笑顔を思うと、苦勞して準備した甲斐がありました。

当日本番、万華鏡作りの時間が30~40分位の時間しかないので、一から作るには無理なので、部分的に準備をこちらでしておき、一人1セットずつ配り万華鏡作りに頑張っていたできました。

人数が多いので、佐藤さんと私を中心に、またスタッフのみなさんに応援をしていただき、あちこちテーブルを回りながらなんとか完成。

あちらから「出来た!」。こちらから万華鏡を覗きながら「うわー綺麗!」と喜んでもらった事が、疲れも吹っ飛び一番嬉しかったです。

イベントに参加させていただいて、いつもとは違うボランティア活動で、障がい者の方や、他のボランティアの方、またCVJのメンバーの方たちとの交流も図れたりで大変楽しく、2日間を過ごさせていただき、本当に有難うございました。

小豆島の思い出が、いつまでも心の片隅に残ることでしょう。

この企画及び、いろいろと細かい配慮、準備をして下さった方々、本当にご苦勞様でした。

H22年6月末日

(しばた くにあき) 枚方市在住

今回イベントゲストの「NPO 枚方自助工房」と「NPO キッズナビわかば」のHP ご案内

<NPO 法人 枚方自助工房→<http://www.geocities.jp/jijogu/index.html>>

<NPO 法人 キッズナビわかば→<http://www.wakaba.blogspot.com>>

## ⑤ 「小豆島のキャンプによせて」



〈武田さん〉

ゲスト 似顔絵ライター 武田 伊左夫

大島さん、竹沢代表 小豆島キャンプをご企画いただきありがとうございました。

久しぶりに長閑に旅を楽しめました。

小豆島の豊かな自然に触れ、思わず涙が出そうになりました。私があゝの「わらべ亭」の子どもたちの年齢の頃には神戸にも同様に豊かな自然があったのです。

ですが、高校生になった頃にはほとんどなくなってしまいました。思わず涙が出そうになったのは、なくした自然の豊かな環境の大切さからなのか、自分がそのことに気がつかなかったという悔いなのか、わからないままです。

「二十四の瞳」の「平和の群像」を観ていると、想わず「わらべ亭」の子どもたちと北條先生の姿が重なってやっぱり涙を抑えていました。

海がめの産卵砂浜でも、小学校があんなにオープンな環境であることに驚きました。

そして感心しました。

厳重なフェンスや防犯装置など、あの小学校には無用なのでしょう。

先生、生徒、保護者、地域の人たちの心がしっかりと繋がっているのでしょう。

「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」という武田信玄（が詠んだという）の句を想いだしました。

その他の企画でも、コマーシャルベースでのツアーでは得られない深い感動をいただきました。

我が母の認知症が進んだ今、改めて大島さん、竹沢代表のキャンプの企画が、いかに大切か思い知らされます。来年は、我が母にもこのような感動を味わってもらいたく母を伴って参加できればうれしく思います。

微力ですが、これからもこの大切なキャンプのためにご協力させていただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

大島さん、竹沢代表、CVJと一般のボランティアのみなさまのご苦勞に深く感謝いたします。それに比べれば、似顔絵の段取りがうまくいかなかったことなど、どれほどのこともない。くだらぬことで苦情を言ってしまうました。反省しております。申し訳ないことを申しました、お許してください。

また、私の留守中の母の見守りで、大島さんに無用なご心配をかけてしまいました。この点も反省しております。僭越ながら、キャンプ企画のPRと賛同者、ボランティア呼びかけを兼ねて、地元神戸新聞「発言」欄に投稿しようと目論んでいます。

今、自宅の部屋で焼酎を呑みながら、こんな拙句を詠みました。

**「まだまだ小さな我を 思い知って呑む 旅の後」**（たけだ いさお） 神戸市在住

< 武田さんが「神戸新聞」に投稿された文 >  
タイトル 「弱者に優しい世の中にしましょう」

5月末に「障害」者といっしょに小豆島へ1泊旅行に参加しました。

主催、企画される0氏に賛同しボランティア参加し、今年で7年になります。

0氏やその他のスタッフのご尽力で、盛りだくさんの楽しい催しと小豆島の豊かな自然と  
いろいろな人との交流を満喫してきました。

身体的、知的…「障害」者がこのように楽しく旅ができる環境に残念ながら私たちの世の  
中になっていません。日常生活すらたいへんなのです。



母の認知症が進んだ今、改めて実感します。

「障害」をもつ弱者が「健常」者と同じように旅行をしたり、いろいろな娛  
楽を楽しめる世の中、普通に生活できる世の中にしなければなりません。

今は不自由なく暮らしている人も何時不慮の事故や病気で「障害」者になる  
かわかりません。

まして高齢になれば体力・知力・気力が衰え、必ず何らかの「障害」をもつ弱者になりま  
す。その時になって暮らし難いことに気づいても遅い。

そのために、私たちは先ず、弱者に優しい生活態度に改めなければならないでしょう。

電車やバスで席を譲る、「障害」者用の駐車場を占拠しない、困っている人に手助けする。  
できることはたくさんあります。身近なことからみんなで、弱者に優しい世の中にしてい  
きましょう。

この旅行企画は毎年行なっています。読者の方で何かご助力をいただけるご奇特な方がい  
らっしゃいましたら、ぜひご連絡をお願いいたします。

## ⑥ 「温かな人たちとの交流」

CVJ会員 加藤 吉和

まずは小豆島の素晴らしい環境と、温かな人たちとの交流  
に心が和みました。

企画下さった大島さんをはじめ、試走に何度も事前訪問を  
された皆様ありがとうございました。

今回は、お誘いした視覚障害の方が4名おられ、一人では  
対応が無理！

どうすれば2日間を無事過ごしてもらえるかと気を揉ん  
でいました。フェリーでの移動や、宿泊・食事・入浴と気になることばかり……。

ご本人たちは、「全盲は2名だけなので、問題ないですよ」  
とおっしゃっていましたが、不安を抱きつつの出発でした。

ところが、案ずるより産むがやすし……順調に行動が進みました。



<右・加藤さん>

メインのタンデムツーリングで、私の膝の故障から西川さんに代わってもらったこと以外は、順調だったと思います。

フェリーの乗り降りも、食事も問題なく済ませることができました。

入浴だけは、全盲のお二人は少し危険ということでパスされましたが、ご本人たちは、全く問題ないですと言っておられました。

4人の方たちに介助下さった皆様、ありがとうございます。

来年以降も視覚障害の方々が、参加されると思いますのでよろしくお願ひします。

(保護者のように生意気ですみません・・・笑)

<今回のイベントで良かった点>

- ・地元との交流があったこと。
- ・フェリーの利用で変化があったこと。
- ・多様なイベントがあったこと。



<フェリーでのスナップ>

<今回のイベントで検討すべき点>

- ・宿でのイベントで、もう少し出演者との交流をした方がよかったかも。
- ・入浴対応を障がいレベルで検討した方が良かったかも。
- ・二日目の昼食が少なかった。素麺はとても美味しかったが・・・
- ・サイクリングの先頭と最後尾が離れすぎたかも。

<個人的には>

- ・膝の怪我が回復していたと思ったが甘かった。タンデムパイロットとしては自覚不足  
(後ろを走っていた廣田さん、ご迷惑をかけたと思います...すみません)
- ・他の方も言われていましたが、このイベントを継続的に成功させていくために、大島副代表の負担を関西支部全体で分担して行くことが必要です。  
なかなか難しい問題もありますが、事前協議を必要に応じて開催し、頑張るだけだけの遣り甲斐のあるイベントだと思います。
- ・関東の皆様も、時間を切り裂いてのご参加、本当にお疲れさまでした。  
8月の京都、10月の三浦半島で再会できることを楽しみにしています。  
来年1月の台湾ランも良いなあ～。最終日は私の55歳の誕生日ですし・・・

(かとう よしかず) 枚方市在住



<右・廣田さん>

## ㊦ 「小豆島あれこれ」

CVJ会員 廣田 和彦

昨年について、このイベントに参加しました。

私にとって、このイベントは、“タンデム自転車の宣伝活動の一環”を兼ねています。と言うのがもともとの動機(下心ともいいます)だったのですが、本当のところ、昨年参加して思いがけず楽し

かったから、また参加したのです。去年はタンデムパイロット要員でした。「徒歩グループ」の希望者を自転車体験させるために、橋を行ったりきたりしました。

今年ペアを組んだ広瀬さんとは、そのときにもタンデム自転車に同乗しています。

去年の広瀬さんは、始終「ゆっくり行こう」と繰り返していました。

慣れない速度と、見ず知らずの人にハンドルを任せる不安からの言葉だったと思います。

今年はどうだったか。

スタート前にちょっと練習しましょうと、スタート地点付近を走っていると「ゆっくり行こう」の言葉がでます。

やはり怖いのだろうなあ、この調子では時間の余裕が無くなってしまうかも、どうしよう。

先が思いやられました。スタートしてまもなく、最初の下り坂に差し掛かかりました。いつ「ゆっくり行こう」の言葉が出てくるのかと、恐る恐る速度を増していきます。

そうしないと、前を走る自転車から大きく遅れてしまいますから…。

すると広瀬さんから「気持ちいいねえ」との言葉がでました。予想外でした。怖くないかと聞くと「平気」との返事。

ブレーキを握る力を少しずつ緩め、坂を降りきったときには時速30kmを超えていたはずです。

おかげで次の坂は惰性で半分以上登っていけました。

後は快調。一番の急坂でも降りることなく、よろよろもせず、登りきることができました。広瀬さんと信頼関係が築けた(彼がどう考えているかはわからないけれど、自分ではそう思っている)のが、大きな収穫でした。

[ 断片 ]

\* フェリーが島に到着して驚いた。急峻な山。もっと穏やかな地形を想像していました。小豆島が予想以上に大きな島であることにも驚きました。

おいしいものもたくさんあるし、景色も良いし。家族連れてサイクリングに来たくなりました。

\* 対向車が来たらどうしようと思うような狭い山道を進む大型バス。曲がり角の切り替えしと、坂道発進にプロフェッショナルの技術を見ました。

\* また、音楽に合わせて体を動かすのは、中学生のときの盆踊り以来でした。真剣にやると楽しいです。思うように動かない自分の体は…まあ仕方ない。

\* 太鼓、格好よいなあ。掛け合いが面白かったです。

\* 万華鏡、子どもだけでなく大人も大喜び。よいお土産になりました。

\* そうめんって、グングンと伸びるものなのですね。

天気が良かったから、冷たいそうめんが殊更においしかったです。

\* 障碍があっても自転車に乗りたいた人は少なくないみたいです。

バリアフリーサイクリング -- 次はハンドサイクルの人の参加もあるといいですね。

**いろいろな人と知り合える機会、貴重です。また来年!**



## [ 外 伝 ] タ ン デ ム 自 転 車 を 手 配 せ よ !

今回のイベントには4台のタンデム自転車を兵庫県の団体から借りることになっていました。規則上貸し出しができなくなったとの知らせがあったのが、イベントを週末に控えた月曜日のことです。タンデム自転車、なんとかならないか。

私に関わっている、タンデム自転車交流協会のメーリングリストを通じて呼びかけたところ、一晩のうちに数件、提供可能であるという連絡がありました。

ほかにも、兵庫の横井さん、大島さんの知人、友田さんから追加のタンデム自転車提供の申し出があり、すべて足し合わせると、一晩にして9台のタンデム自転車が使えらる状況になったのです。タンデム自転車交流協会の繋がりからは、大阪の樋本さんから2台を貸していただくことにして、友田さんから2台、大島さんの知人から1台、予定通り計5台のタンデム自転車を確保できました。数日のうちに起こった小気味良い展開に、サイクリストの連帯を見ました。そしてもう一つ、大島さんと大阪の樋本さんの繋がりを作れたことは大きかったと思います。こういうことから、関西のタンデム自転車解禁活動が盛り上がるのではないかと期待しています。「災い転じて福となす」「雨降って地固まる」を目の当たりにするという貴重な体験でした。

## [ 反 省 あ れ こ れ ]

### \* 武田さんごめんなさい

せっかく作ってもらったワイヤークラフト、活用できませんでした。

気づいたのが帰りのバスを降りたとき。本当に申し訳ないです。

### \* 大島さんの負担

企画・運営の細部まで大島さんが采配をふるというのは、負担が大きすぎるのではないのでしょうか。長続きする運営形態を考えたいです(言うのは簡単ですが)。

### \* 自転車の乗り方講習の時間が欲しい

10分くらいの時間、広場で乗り方の練習をしたほうが良いと思います。

変速機の使い方が判らなかつた人も多かつたようです。そういえば準備運動も忘れていました。

(ひろた かずひこ) 埼玉県在住



<右・西川さん>

## ㊦ 「 天 真 爛 漫 な 笑 顔 」

CVJ会員 西川 正樹

大阪の西川です

大島さんが企画されたイベントに初参加しました

西上さんを初めとする方々が「初めてのボランティアなので…」と言われますが、私も正直、戸惑っています今も…。

「障害」をもたれる方に、どのように接するのか？恐怖に近いも

のがあります。

とは言え、いつもの開き直りで娘と阪急茨木駅へ。

娘はバス、私は軽四（伴走車）と別れ、娘が、よからぬ事をしないか不安のなか出発。

大過なく夜のイベントへ。

夜のイベントで感じた事ですが、事情があり予定の順番がころころ変わる。

私も司会経験は2度ぐらいなので、ひやひやししながら、やっていました

大島さんが目一杯一杯でやっているの、これ以上言えない。（大島さんは、もっと人に振り分けないとこれからも続けるのでしたらしんどいですよ）

しかし、段取りが分からない。歯がゆい状況下の中、一番感心したのは、「障害」者もボランティアの方も皆参加していたことですね。あの人数である拍手、この一体感は初めての経験です。そして、時間調整で、娘が歌っている時に、2人の女の子が踊ってくれました。彼女たちは感情を見事なまでにストレートに出すので、天真爛漫な、あの笑顔！考えさせられました（私の方がはるかに不器用である）



<優子さんの歌声>

また、経験者の方が「障害」をもたれた方への接する顔が、実に自然で、ソレが出来ていない私にはギャップとなりました。

声を出してふざけることは得意ですが、一言目の自然さとも言うのでしょうか。

よくまあ、これ程のお人よしが一度に集まったもんだ！

ひたすら感心しながら、2日が過ぎました。ありがとうございました。

私の娘はバスの中で粗相はしていませんでしたでしょうか？心配です。ご無礼がありましたらお許しください。

最後に皆さん、時間があればお風呂に入って、我々の事を忘れていた SOSS の方を呼んで、あの「やおよろず屋」へ行きたいと思いませんか。レンタサイクル屋の隣です

（にしかわ まさき） 東大阪市在住

## ㊦ 「しまなみ海道」イベントに参加して



<鵜飼さん>

CVJ 会員 鵜飼 友義

東京から遅れて参りました鵜飼です。

ほとんど、飛び入りにちかいかっこうで押しかけ合流したにもかかわらず、暖かく迎え入れていただき誠にありがとうございました。

そして大島さん、ならびに関西の運営に携わられたみなさん。大変お疲れさまでした。

やっぱり、みんなと走ると楽しいっすよねー。

また、大島さんのイベント運営にはホント、見習うことばかりでございます。

関東で夏のランを担当させていただきますので、ちょこっとパクらせていただきます。

あ、今回参加者で関東にお知り合いがいらっしゃるようでしたら、夏のランの告知を何卒ヨロシクお願い致します（笑）

バスン中で伝え損ねたんで、この場をお借りしてお願いしちゃいました

二回目ともなると、CVJとしてサポート役ではあるのですが、ほとんど、仲間内とのイベント旅行という感覚も芽生えており、来年だけでなく、なんだかこれからもずっと参加しそうです。

ですんで、私でお役に立てることがありましたら、いんや、あんまり無くても馳せ参じます。伴走、配膳、下げ膳、布団敷き、風呂介助、力仕事、場所取り、高いところのものを取って欲しいなど、何なりとお申し付けくださいませ。

ヨロシクお願い致します。イベント運営本当におつかれさまでございました。

（うかい ともよし） 東京都在住

## ⑩ 「お疲れさまでした」

CVJ 会員 渡邊 克己

大島さん、大変お疲れさまでした。天気にも恵まれ楽しい2日間を過ごすことができました。心地よい疲労感がたまらんですね！去年とは違い自分自身も心から楽しむことができました。今年も参加して良かったと思っています。 （わたなべ かつみ） 横浜市在住



<渡邊さん>

## ⑪ 「はじめての経験」

CVJ 会員 友田 清信

西上さんと同じく、今年関西で入会した友田清信です。

力と機材の提供では西上さんに負けないつもりですが、話術、書き物は全くダメなタイプです。

そんな私も、今回初めての経験をさせていただきました。移り変わる场景、風景の説明に『今、ロープウエーで渓谷を下ってます。ロープウエーの高さは・・・』

『右側は、山水画のような、えーと、中国の有名なあの、何とかとかいう景色に似て・・・』

『左は切り立った岩肌で・・・』

『真下はジャングルの上をヘリコプターで低空飛行しているような・・・』

お土産売り場では『はい、甘い物コーナー、饅頭、プリン、煎餅類です』



<友田さん>

『プリンの種類は・・・』



と、しどろもどろの説明ではたしてイメージしていただけたのか心配でした。

二日目は自転車の後ろに乗っていただき海岸線のサイクリング。失明する前はバイクに乗っておられたそうで、下りの風を切るスピード（この部分は少し自信があります）で、『今、速度何キロ位？風が気持ちいいね～！』と楽しそう話しておられたので、前日の気疲れも吹っ飛んでしまいました。

帰りのフェリーの中では、マッサージ師になるための練習と称して肩をもんでいただき、どちらがスタッフだか分からない状態でしたが、皆さんの助けをお借りして、どうにか二日間を過ごすことができました。ありがとうございます。

サイクリングでは初っ端からミスコースしたり、体格に合わない車種で、無理をお願いしたりの準備不足をどうぞお許し下さい。

(ともだ きよのぶ) 枚方市在住

## ⑫ 「笑顔と快晴がすばらしい2日間」

CVJ 会員 西上 裕子

はじめまして、5月に会員にして頂いた大阪の西上裕子(にしう えひろこ)と申します。どうぞよろしく申し上げます。

先日、大島副代表企画のCVJの「小豆島イベント」に参加し、初の会員活動をしてきました。

Steveさんの写真が物語ってますが、笑顔と快晴がすばらしい2日間でした。



<西上さん>

ママチャリに乗るしか能がなく、会員になるのをためらっていた私に何かできるかなあ、

と思ったのですが、初めてタンデムに乗りパイロットとして、普段風を切って自転車に乗ることのできない視覚障害のある方に「風を切って気持ちいい」と言ってもらうことができました。嬉しくてほんとにほんとに嬉しくて、涙が出ました。

ボランティアも未体験。いままでためらいがありませんでした。でも「ハンディキャップのせいのできないこと」を手伝うだけなんだという、いとも簡単な結論がでました。また、私の自転車に乗せてあげたい！と思いました。

参加された会員の方々の、気負いのない軽やかな動きもみんなカッコよく、仲間に入れてもらって良かったなと思いました。

竹沢代表を筆頭に、たくさんの自転車やマラソン等の猛者ばかりのCVJ。相変わらず圧倒されますが、これからもよろしく申し上げます。(にしう え ひろこ) 枚方市在住

## ⑬ 「小豆島イベントに参加して」

CVJ会員 浦川 勝己



＜浦川さん＞

「じゃーん」やってきました1年ぶりのイベント。昨年で「しまなみ」は完結して今年は小豆島です。企画・下見・準備は大島さんにおまかせで、関わったことは前日と最終日のタンデム借り入れ、返却とイベント前日のミーティング交流会会場「平八」の準備ぐらいかな。

で当日を迎え、阪急茨木駅でみなさんと1年ぶりに再会。はじめての方もおられる中、昨年参加の真美さんが一番に「おっちゃんが好きやねん」ではじまりました。

マイクを持つたびに競輪生活30年の浦川で、つかみはOK覚えていただけたことでしょう。

わたしは神戸から参加された中村さんのボランティア担当。中村さんは先天性網膜はく離で阪神大震災直後、仕事の疲労とストレスが原因で10年前から視野が狭くなりだし、2年前に市役所を退職されたそうです。

今年も京阪バス武村さんの運転（いつもありがとうございます）で小豆島に入って、まず「寒霞溪」で1億円のトイレ観光 えっ！

「小豆島わらべ亭」との交流会では「おっちゃんの顔に描いていいよ」といえば顔が落書き帳。

「エンジェルロード」散策。アベックで歩けば結ばれるとか。次回は夫婦で？

旅館に到着。風呂と食事はほどほどに次はお待ちかね「全体交流会」。西川コンビの司会で始まり、なかでも印象に残ったのは和太鼓「かんだん」と「SOSS」（小豆島オーリーブサウンド）の歓迎演奏、万華鏡づくり（娘が大喜び）、ゲストの有松さんの手あそびなど感動の2時間でした。

そして「参加者交流会」はアルコールもありで会話が盛り上がり、あっという間の2時間でした。その間、私は4人の方の体をメンテナンスして喜んでいただいて元気をいただきました。

今宵もほどほどにで、2日目はメインの「サイクリング」。タンデムで中村さんと快走。

天気がよく風がさわやかで海岸線では海の香りもして「風が最高に気持ちいいですね。こんな感じ何年ぶりかな…。風景の説明をしながら会話もしたのですが「浦川先生」なんて言われ「ぜひまた参加したいので体をきたえます」とのことでした。



＜中村さんとペアラン＞

私はやはりいつものように自転車に乗れば速く走りたくてたまらなくなるのですが、安全のため隊列は崩さず進みましたが、最後の坂は中村さんと息を合わせてスピードを出し過ぎたかな……。自転車は力を余しながら終了。



#### <ソーメン箸分け体験>

ございました。竹沢代表・大島副代表・関東より参加のCVJメンバー・一般ボランティアのみなさま・一般参加のみなさま、楽しい2日間ありがとうございました。

来年も元気で会いましょう。専業主夫より。 (うらかわ かつみ) 茨木市在住

「ひまわり福祉会」を参観後、ソーメンの昼食。運動をした後の食事は最高でした。

そして名残惜しく反省・感想を交え、帰宅の途へ。

このうえない天気でよいイベントでした。また、CVJに2名の加入申し込みもありました。反省点としては安全が1番のイベントでS君が転倒。大きなケガにはならなかったのですが、残念です。その後、お母さんの励ましで完走されたようですが、申し訳

### ⑭<「大師の宿」からのメッセージ>

小豆島イベント、本当にお疲れ様でございました。

何よりお天気がよく、皆様がお元気に自転車走られているお姿を見れてよかったです。素敵な笑顔でしたよ。

お宿のほうは、エレベーターもない古い建物で、お部屋も狭い中、協力して入っていただき、本当に申し訳ございませんでした。

でも、お食事や交流会のときに皆様のたくさんの笑顔を見ることができこちらも幸せになりました。ありがとうございました。

約1年前からのご準備、度々の視察など大島様も本当にお疲れ様でございました。このような大きなイベントに私どもの宿をお選びくださいましたこと、心より感謝申し上げます。

また、ぜひ小豆島にいらっしゃってください。お待ちしております。

大師の宿 岡田



<宿での夕食と全体交流会>

[V] イベント資料あれこれ 一順不同一

「イベント参加呼びかけ」&「実施要綱」& 歌集

&「参加申し込み書」&「イベント参加誓約書」

<別紙資料をご参照ください>

## 〔VI〕 当日アンケート集計結果

集計・記録担当；大島 政廣

### 2010「小豆島イベント」・アンケート集計結果

提出＝35通 集計対象者＝38名 （回答分のみを紹介）

#### ①<1日目の昼食について>ひれかつ弁当

- ・美味しかった ＝28人 ・ボリュームがあった ＝1人 ・ちょうどよい ＝1名
- ・ごぼうを残している子どもが数人いた ＝1人 ・ひれカツがサパサパしていた ＝1人
- ・煮物があった方がよかった ＝1人

#### ②「寒霞溪」観光について（ロープウェイ、散策など）

- ・景色がきれいで、迫力があつた。写真がいっぱい撮れた ＝24人 ・もう少し時間がほしかった ＝5人 ・違う季節にも訪れたい ＝2人 ・こわかった ＝1名
- ・車内が混んでいた ＝1人 ・景色が見えないのが残念（視覚「障害」の方）＝3人

#### ③「小豆島わらべ亭」訪問・交流について



#### <「わらべ亭」との交流>

- ・いろいろ準備（ダンス、フェイスペインティング、エコトンボなど）され、楽しかった ＝18人 ・地元の人と触れ合うことができよかった 6人 ・子どもが楽しめる有意義だった ＝2人 ・旗がとてもきれいだった ＝1人
- ・少し時間がたりなかった ＝1人 ・もう少し触れてわかるものがほしかった ＝1人
- ・うまく踊れなかった ＝1人 ・進行をもう少しスムーズに ＝1人

#### ④「大師の宿」について（食事、風呂、部屋など）

- ・ご飯がおいしかった ＝15人 ・細かな配慮や接客、おみやげが買えたなどの理由でよかった ＝11人 ・部屋は広くてよかった ＝5人 ・階段は苦手 ＝1人
- ・お風呂が熱かった ＝5人 ・風呂が混んでた ＝8人 ・朝風呂がなかった ＝1人
- ・ちょっと施設が古かった ＝3人（網戸がほしかった、洋式トイレの個数を多く）

#### ⑤夕食時の全体交流について（記念品製作、レクリエーション、似顔絵、何でもコンクール、ゲストとのひととき、小豆島太鼓、音楽サークル演奏など）

- ・バラエティー豊富な企画で盛り上がって楽しかった ＝22人

- ・小豆島太鼓の迫力はすごかった = 11人
- ・似顔絵がよい思い出になった = 5人
- ・万華鏡づくりがよかった = 3人
- ・カラオケがよかった = 3人
- ・「何でもコンクール」に参加できてよかった = 2人
- ・音楽サークルの演奏がよかった = 1人
- ・友だちのダンスがよかった = 1人
- ・もっと時間が長くて… = 1人
- ・温かく迎えてくれた島の人に感謝 = 1人
- ・同室の人との交流で不参加 = 7人
- ・寝てしまった = 1人

#### ⑥夜の参加者交流会について（Pm10時～12時まで）

- ・アツという間の楽しい時間であった = 6人
- ・いろんな話が聞け、交流できてよかった = 6人
- ・ビールを飲んだ = 1人



- ・つまみがおいしかった = 1人
- ・CVJの話しが聞けてよかった = 1人

#### ⑦サイクリングまたはバスでの2日目朝の観光について（企画・コースなど）

- ・気持ちよかった = 14人
- ・景色もきれいで、コースがよかった = 9人

#### ＜「エンジェルロード」にて＞

- ・もっと走りたかった = 2人
- ・坂道がしんどかった = 2人
- ・ちょうどよい距離だった = 2人
- ・運動不足には助かる = 1人
- ・1日目も走りたい = 1人
- ・時間がゆっくりあった = 1人
- ・サイクリングが好きになった = 1人
- ・「しまなみ」より楽であった = 1人

#### ⑧「ひまわり福祉会」施設参観について（感想など）

- ・勉強になった = 10人
- ・園長先生の説明がていねいで親切 = 9人
- ・興味深く見学した = 3人
- ・オリーブの世話をしたく思った = 2人
- ・応援したい気持ちになった = 2人
- ・りっぱな建物と環境のよさに感心 = 2人
- ・疲れて眠くなった = 2人
- ・たいへんな仕事と思った = 1人
- ・樹齢1600年の木も見れた = 1人
- ・ささゆりの由来も聞いてよかった = 1人
- ・島民との交流がどのようになされているのか聞きたかった = 1人

#### ⑨「小豆島ふるさと村」でのひとときについて（ソーメン箸分け体験、食事）

- ・ソーメンがおいしかった = 18人
- ・箸分け体験がよかった = 11人
- ・食事が物足りなかった = 7人
- ・昼食は自己負担でもよかったのでは… = 1人
- ・時間が少なかった = 1人
- ・田舎を思い出した = 1人
- ・ソーメンの奥深さを知ることができた = 1人

#### ⑩往復の交通について（バス・フェリーなど）

- ・フェリーの旅がよかった = 9人
- ・快適な行程だった = 8人
- ・ドライバーさんありがとう = 7人
- ・帰りは眠かった = 2人
- ・バス移動で楽だった = 1人
- ・いろいろな話が交流できてよかった = 1人

- ・クイズがよかった = 1人
- ・もっと歌を唄う時間を… = 1人
- ・バスに少し酔った = 1人
- ・適当に自由度があってよかった = 1人

#### ⑩ イベント全体について（準備・企画・参加費・来年度への要望や候補地など）

- ・内容が盛りだくさんで短く感じた、最高、楽しかった、また来たい = 17人
- ・企画、運営ごくろうさまでした = 5人
- ・ボランティアが気さくでよかった = 2人
- ・いろんな交流ができてよかった = 1人
- ・企画担当者の負担が大きすぎる = 1人
- ・来年はサイクリング道を = 1人
- ・来年、徳島県日和佐付近は = 1人
- ・来年もどこかの島のサイクリングを = 1人
- ・触れたり、体験できるものを = 1人
- ・自分自身の下準備が不足だった = 1人
- ・万華鏡が喜んでもらえてよかった = 1人

#### ⑪ その他、お気づきになられたこと

- ・最高に楽しかった = 7人
- ・時間設定が短かった = 3人
- ・小豆島よかった = 3人
- ・いろいろお世話をありがとうございました = 3人
- ・みんなの笑顔が見れてよかった = 2人
- ・子どもの喜ぶ姿が印象的だった = 1人
- ・一つの思いになって行動されていた = 1人
- ・自転車の時間をもっと = 1人
- ・きめ細かな盛りだくさんの企画だった = 1人
- ・持ち物に名前を = 1人
- ・新・別館の移動がたいへんであった = 1人
- ・はじめてのボランティア体験 = 1人
- ・ボランティアの打ち合わせ時間があってもよかったのでは = 1人

#### ⑫ 今回の企画を採点するとしたら

- ・70点以下 = 1人
- ・70～79点 = 2人
- ・80～89点 = 5人
- ・90～99点 = 14人
- ・100点 = 7人
- ・110点 = 1人

#### ⑬ 来年もこうした計画をしていますか、来年も

- ①ぜひ参加したい = 27人
- ②参加を検討してもよい = 1人
- ③不参加 = 0人

## 【VII】 イベント会計報告

＜収入の部＞ 89万1830円（①～④合計）

①参加費（ボランティアも含む） 742000円（41家族分）

②CVJより 3万円 ③竹沢代表寄付 10万円

④その他（カンパ、キャンセル代など） 9830円

＜支出の部＞ 101万6208円

①1日目昼食弁当代 26800円 ②京阪バス関係 157720円 ③フェリー往復 153320円

④ロープウェー（往復） 35280円 ⑤レンタルサイクル 20000円

⑥宿泊費（旅館） 352600円 ⑦傷害保険 22938円 ⑧2日目昼食（ソーメン） 29500円

⑨イベント関連費用（消耗品、お酒、おつまみ、文具など） 27855円

⑩サポートカー関係（ガソリン・高速代） 10195円

⑪ゲスト、伴走車、タンデムお礼、記念品材料費 130000円

⑫印刷・通信費（イベント呼びかけ、実施要綱、歌集、誓約書、報告集など作成、電話・イ

ベント連絡調整など) 15000 円

⑬雑費(下見3回、その他) 35000 円

<各収入明細・領収書などは竹沢代表の方で保管していただいております>

<関東地区からの CVJ 参加者には、竹沢代表より交通費補助がされています>

## 【VI】「小豆島」イベント報道(順不同)

- ①「ひらかた NPO センター広報・ふれあい」
- ②「ひらかた NPO センターボランティアだより」
- ③「山陽新聞」2009 年 8 月 10 日付朝刊 20 面、2010 年 5 月 31 日付朝刊
- ④「ひらかたボランティアセンター」掲示とボランティアだより掲載
- ⑤ ミニコミ誌「Lip」掲載
- ⑥ FM 枚方出演(7/14、7/15 再放送) 大島・西川(20 分間放送)

## 【VII】「小豆島」イベント協賛・協力

- ① 株式会社「OGK カブト」様より サイクリング用ヘルメット
- ② 株式会社「モンベル」様より タオルとティッシュ
- ③ 株式会社「三ツ矢サイダー」様より 缶入りドリンク
- ④ 昨年度ゲスト赤城正幸様より ゴリゴリプロペラ
- ⑤ 今年度ゲスト武田亥三男様より ワイヤークラフト作品
- ⑥ 小豆島総合開発株式会社様より 寒霞溪ロープウェイ運賃割引

## 【VIII】 編集後記

イベントの時、同様多くのみなさま方の協力を得て、この「報告集」を発行することができました。イベントでの感動あれこれを多くの方々に共有していただければ編集者としてこれに勝る喜びはありません。

また、来年(2011)6月4日～5日(日)には、過去3回のイベントをシンボライズした統一タイトルのもとイベント第4弾として「淡路島イベント」の企画を現在進めております。来年もみなさま方との再会を楽しみにしております。ぜひこれらの感動を来年も共にしましょう。(おおしま まさひろ)

<全ページ写真提供>木下滋雄さん、Steve・Sealさん

